

バンテージ・ポイント

2008(平成20)年2月14日鑑賞(ソニー・ピクチャーズ試写室)

★★★★



監督＝ビート・トラヴィス／出演＝デニス・クエイド／マシュー・フォックス／フォレスト・ウィットカー／シガーニー・ウィーヴァー／ウィリアム・ハート／ゾーイ・サルダナ／エドゥアルド・ノリエガ／アイエレット・ゾラー／エドガー・ラミレス／サイド・タグマウイ (ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント配給／2008年アメリカ映画／90分)

第1章

ハリウッド映画もいよいよ変容か？

……今、民主党内のヒラリーとオバマの争いが面白い！ そんな中、大統領狙撃を8つの視点から描いたエキサイティングな映画に注目！ パキスタンのブット元首相の暗殺は現実に起きた事件だが、こちらはあくまで架空の話。しかし、映画なればこそその真実の解明は……？ 結末には多少「異議あり！」だが、こりゃ面白い！ そして久しぶりに大興奮！

これは面白い！ 久しぶりに大興奮！

バンテージ (VANTAGE) とは、有利、優越、優勢という意味だから、バンテージ・ポイントとは「有利な地点」「見晴らしのきく地点」という意味。それだけでは何のことかわからないが、この映画は、ケネディ大統領の暗殺を描いた『JFK』(91年) や『ダラスの熱い日』(73年)、さらには昨年の12月24日に観た『エンドゲーム 大統領最期の日』(06年) などと同じく、アメリカ大統領の狙撃事件をテーマとしたもの。

場所はスペインのサラマンカ。今、アメリカ大統領ヘンリー・アシュトン (ウィリアム・ハート) は、対テロ戦争の画期的構想を5大陸の指導者たちと話し合い、テロ撲滅を実現化させようとしていた。しかし、マヨール広場でいよいよ大統領の凱旋スピーチが行われようとするその瞬間、2発の銃弾が大統領の胸に。

第1の視点は……？

映画の冒頭に提示されるのは、歴史的なスピーチを始めようとするアシュトン大統

領の姿を、すべてのアメリカ国民に伝えようとしているベテラン番組プロデューサーの女性レックス・ブルックス（シガーニー・ウィーヴァー）の視点。現場の若い女性レポーターはアンジー（ゾーイ・サルダナ）だが、なるほどニュース番組はこのようにつくられているのか、ということがよくわかるし、その迫力は相当なもの。

しかし、モニターを観ながら矢継早の指示を出しているレックスの目の前で、大統領の胸に銃弾が命中したばかりか、その後の大規模な爆発によってアンジーは死亡してしまうことに……。普通はこの映像だけでコトの真相を解明していかなければならないのだが、この映画はそれ以外に8人の目撃者による8つの視点を……。もっとも、8人の目撃者による8つの視点といっても、その8人をどう数えるかは微妙……。以下第1～第4の視点は明確だが、第5以下は私なりの主観が入っているので、あらかじめそのお断りを。また、そのうちの1つだけは、ネタバレとならないため、ヒントのみにとどめたい。

第2の視点は……？

第2の視点は、シークレットサービスに復帰したばかりのトーマス・バーンズ（デニス・クエイド）の視点。バーンズは1年前に大統領狙撃事件を体を張って阻止したシークレットサービスの英雄だが、職場復帰が恐る恐るとなっていたのは当然。サラマンカ市長のあいさつの中、彼が気にしたのは、向かいの建物のある部屋のカーテンがそよいでいること。1年前の彼ならそこで適切かつ明確な指示を出したのだろうが、職場復帰したばかりの彼はあまり自信がないのか、その指示は曖昧で、同僚たちから神経過敏になっていると言われると、自信喪失気味……。ところがそんな中、ホントに銃声が……。そしてバーンズはかすかながら向かいの部屋の窓から閃光の余韻を……。さて、これがバーンズの視点だが、これだけでは狙撃犯の追及には当然不十分。したがって、以降彼がどんな情報を集め、どんな活躍をしていくのがこの映画の焦点。この映画の主人公はこのバーンズであり、彼の活躍ぶりがこの映画のメインストーリーになることだけはここで明確にしておこう。

第3の視点は……？

第3は、サラマンカ市長護衛のため広場で任務についていたエンリケ（エドゥアルド・ノリエガ）の視点。バーンズが、大統領が狙撃された直後演壇に飛び出してきた

エンリケをとっさに取り押さえたのは当然。なぜならバーンズにしてみれば、こんな行動をとったエンリケを瞬間的に犯人の一味と理解したのは当然だから。

ところが、このエンリケはサラマンカ市長の護衛の任務についていた地元スペインの刑事。もっとも、市長の演説が始まる前にエンリケが目撃したのは、恋人のペロニカ（アイレット・ゾラー）が別の男ハビエル（エドガー・ラミレス）と親しそうに話していた風景。それを問い詰めるエンリケに対して、ペロニカは「私が愛しているのはあなただけ。私を信じて……」と甘い言葉をかけたが、さてその真意は……？

また、私が気になるのは、ここでエンリケが約束だったという何かが入ったポストンバッグをペロニカに渡したこと。さて、これには一体何が入っているの……？ そして、謎の美女ペロニカは一体何を狙っているの……？

第4の視点は……？

第4は、広場でさかんにソニー製のビデオカメラを回していたアメリカ人旅行者ハワード・ルイス（フォレスト・ウィットカー）の視点。2007年12月27日に発生したブット元首相の暗殺事件（狙撃事件）でも誰かが撮影していたビデオカメラが大きな威力を発揮したが、ハワードの撮影はプロ並み。

すなわちハワードは、①モニターの中でシークレットサービスのバーンズの視線を感じとり、わざわざ向かいの窓を撮影、②その結果、その窓に映る人影らしきものを撮影。さらに美女の姿に目敏く気づいたハワードのビデオカメラには、市長のあいさつが始まる前に③ハビエルと親しげに話している美女ペロニカの映像や④銃声の後に怪しげな行動をとるペロニカの姿が録画されていたから、これは貴重な資料。それに気づいたバーンズはすぐにその映像をみせてもらったが、そこでバーンズが気づいたものは……？ こんな貴重な瞬間をたまたまビデオカメラにとらえたハワードは大したものだが、それは映画なればこそもの……？

ちなみに、この旅行者ハワード役を演じたフォレスト・ウィットカーは、『ラストキング・オブ・スコットランド』（06年）で第79回アカデミー賞主演男優賞を受賞した俳優だが、この映画でも実にいい味をみせている。彼がキーパーソンとなるのは、そのビデオカメラに収めた映像以外にも2つある。1つは、録音の前に話しかけてきたサムと名乗る男（実の名はスワレス）（サイド・タグマウイ）との会話。このサムは一体何者……？ もう1つは、群衆の中をソフトクリームを持って歩いてきたた

めハワードにぶつかり、ソフトクリームを台なしにしてしまった少女アナと、その母親との遭遇。このワンシーンはその後一体どんな意味を……？

第5の視点は……？

この手の大統領狙撃映画の場合、誰もが関心を持つのは、一体誰がどんな計画にもとづき、狙撃を実行するのかということ。そんな映画で面白かったのは何ととっても、ド・ゴール大統領の狙撃を狙うフランス映画『ジャッカルの日』(73年)。そしてマンガの代表作は『ゴルゴ13』。

この映画で、周到に計画・準備された大統領狙撃計画を実行するのは、①謎の美女ベロニカと、②エンリケの目にはベロニカと愛の言葉をささやいているかのように見えた男ハビエル、③そしてなぜか旅行客ハワードに近づき会話を交わしたサムと名乗る男スワレスたち。それも通り一遍の狙撃計画ではなく、あの手この手が入り組んだ複雑な計画をこの3人の視点から詳細に描いていくから面白い。スピーディーかつ正確そしてスリリングなテロリストたちの行動力に注目！

第6の視点は……？

注目は第6の視点で、これは大統領自身の視点だが、これを書いてしまうとネタばれになるので、ここに書くわけにはいかないのが残念。しかし、ヒントだけは少し書いておこう。

黒澤明監督の『影武者』(80年)は、勝新太郎が監督とケンカして降板し、その代役を仲代達矢がつとめて大ヒットした映画だが、あの時代に「影武者」なるものが存在していたのは歴史的な事実。すると、日夜の激務に追われ、テロリストの危険にさらされるアメリカ合衆国大統領に「影武者」がいてもおかしくはない……？ 高度情報化社会の今、そんなバカなことは……？ と思うのが常識だが、ひょっとして……？

ちなみにこの映画では、「ワシ(替え玉)」と「POTUS(本物)」というキーワードが使われているから、それに注目！ ところで、この映画に登場するのはアシュトン大統領だが、2008年11月の大統領選挙で現実にブッシュ大統領の後を継ぐのはダレ……？

第7、第8の視点は……？

第7の視点は、バーンズの復帰に手を貸した同僚のシークレットサービス、ケント・テイラー（マシュー・フォックス）の視点。彼は大爆発の後、拳銃を手にしたエンリケが走り去る（逃げ出す？）のを見てすぐにこれを追っかけたが、さてその後の展開は……？

また第8の視点は、直接大統領狙撃の瞬間を目撃したものではないが、ハワードと仲良しになった（？）少女アナとその母親の視点。狙撃とそれに続く大爆発で場に集まっていた群衆たちが大混乱に陥ったのは当然。そんな時小さい子供が母親からはぐれてしまうと大変。「ママ！ ママ！」と泣き叫ぶアナの姿を発見したハワードはアナを抱きかかえて逃げながら母親の姿を探したが……？

映画全体を通してこの少女アナが大きな役割を果たすから、それに注目！

2つの点で異議あり！

ハリソン・フォードが大統領役で主演した『エアフォース・ワン』（97年）は、大統領自身がものすごいパフォーマンスを発揮するいかにもハリウッド的活劇だった。しかし、私は大統領自身が肉体的にこんなに強靱であることにビックリするとともに、大いなる違和感を抱いたもの……？ その点『バンテージ・ポイント』におけるアシュトン大統領は……？

そんな視点で考えると、この映画の展開には「異議あり！」と思う点がまず1つある。さて私が「異議あり！」と指摘する、そんな大統領のパフォーマンスをめぐるシーンはいつ、どこで……？

私もう1つ「異議あり！」と思うのは、あっと驚く大統領狙撃事件の真相に迫っていく中、後半は俄然カーチェイスの追跡劇になってしまうこと。もちろん、それはそれで迫力があって面白いのだが、問題は、なぜ大統領狙撃事件が後半追跡劇に変わるのか、という点。これは、ある脚本上の設定によるものだが、私はその設定自体に異議あり！ さて、あなたは……？

2008(平成20)年2月16日記